

定住・移住総合情報版



---

---

# たはら暮らし

渥美半島で実現する充実した暮らし

---

---

## CONTENTS

---

---

たはら暮らしを始める前のこと

移住までの流れ

先輩移住者の声

たはら暮らしを始めてからのこと

子育てサポート

定住・移住Q&A

# 「暮らす」ということ

家族がいて、仕事があり、住む場所がある。

暮らすとは、自分のまわりにいる人と

時間を共にし生きていくこと。

このまちに住み続けることが、

その人の暮らしをつくり、まちをつくる。

まちづくりは、人づくり。

特別なことをするわけではない、

毎日、大切に、穏やかに生きていく。

その積み重ねの中で、

歴史あるものを継承し、新しいものを生み出す。

一人ひとりが実現した理想のたはら暮らし。

ちょっとのぞいてみませんか。



たはら暮らし

## 目次

03\_04 まちの紹介

05\_08 たはらの風景

たはら暮らしを始める前のこと

11 移住までの流れ

12 働き方を考えよう

13\_22 先輩移住者の声  
たはらサポート

23 定住・移住サポーター制度

たはら暮らしを始めてからのこと

25\_26 住んでいる人の声

27\_28 子育てサポート

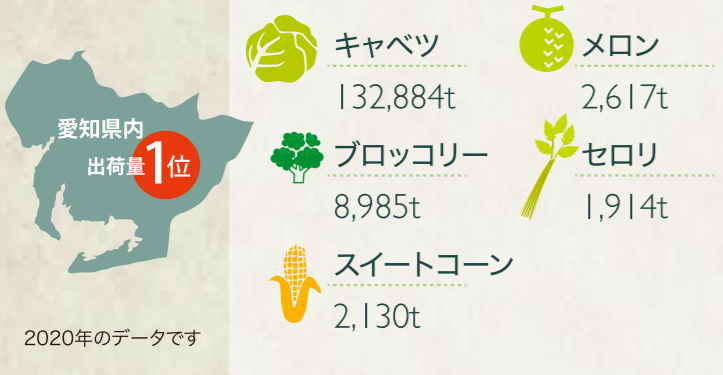
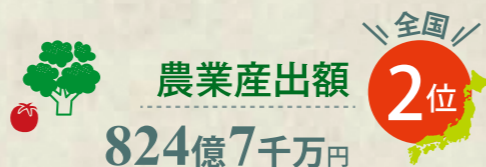
29\_30 定住・移住Q&A

# 田原市はこんなところです



## 1 全国屈指の農業と花のまち

温暖で農業に適した気候に恵まれていることから、農業が盛んです。農業産出額は全国屈指を誇り、野菜ではキャベツ、トマト、ブロッコリー、メロン、イチゴなどの生産が盛んです。さらに菊に代表される花きの産出額は日本一を誇ります。



## 3 定住&移住大歓迎のまち

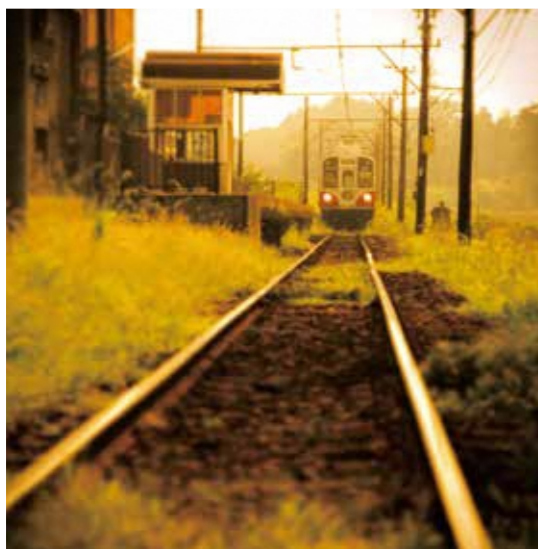
先輩移住者である「たはら暮らし定住・移住サポーター」が定住・移住に向けた仕事や住まいに関する相談から、定住・移住後のサポートまで対応します。定住・移住者の受入に向けた体制整備を、行政と地域が連携して行っています。



## 4 住みやすいまち

北は風光明媚な三河湾、南は勇壮な太平洋、西は伊勢志摩を望む伊勢湾と、三方を海に囲まれた愛知県の南端にある「渥美半島」のほぼ全域が市域です。





温暖な気候と  
充実した時間





温かい人たちの  
たくさんの笑顔



---

たはら暮らしを  
始める前のこと

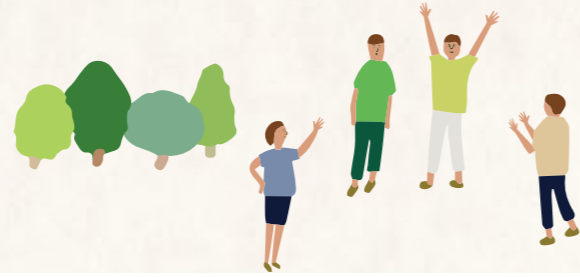
---

先輩移住者の声を聞く  
たはらサポート

---



# 準備する



## 1 移住の目的 条件の整理

- 移住の目的や生活条件などを整理しましょう。

## 2 情報収集



- 子育て支援、医療施設などの生活環境について調べましょう。
- インターネットでの情報収集も重要ですが、「たはら暮らし定住・移住サポーター」などに相談すると「地域の旬の情報」を入手できる他、人との繋がりが生まれることで、移住に向けた不安が軽減されます。

## 3 住む場所の確認



- 収集した情報を元に、生活をイメージしながら現地を実際に確認しましょう。
- 「田原市お試し移住支援補助制度」の対象期間であれば積極的に利用しましょう。

## 4 仕事を決める



- 仕事を決めてから移住をしましょう。
- 仕事に関する支援制度を確認しましょう。
- 特に創業をする場合は綿密な事前準備が必要です。

## 5 家を決める



- 具体的な物件探しは地元の不動産業者に相談しましょう。
- 住宅取得に関する支援制度を確認しましょう。
- 「空き家・空き地バンク」を積極的に利用しましょう。

## 6 地域の仲間入り



- 地域活動などに積極的に参加し、地域との繋がりを深めましょう。

# 住むことは働くこと

「田原市地域職業相談室」や「たはら暮らし定住・移住サポーター」などに相談することで「地域の旬の情報」を積極的に集めながら、自分に合った働き方を検討しましょう。ここでは理想のたはら暮らしを実現することで、充実した毎日を過ごしている先輩移住者の声（インタビュー）と、仕事や住宅取得などに関する支援を紹介します。

## 自分に合う働き方は？

### 新しい仕事をする

<p>野菜や花などの植物を育てることが得意</p> <p>自然相手の仕事がしたい</p> <p><b>農業</b> (P13)</p> 	<p>自分ならではのビジネスを創りたい</p> <p>自分のお店を持ちたい</p> <p>チャレンジが好き</p> <p><b>創業</b> (P15)</p> 	<p>海などで働きたい</p> <p>自然相手の仕事がしたい</p> <p>体を動かす仕事に興味がある</p> <p><b>水産業</b> (P17)</p> 	<p>収入の安定、福利厚生の充実を重視したい</p> <p><b>就業</b> (P19)</p> 
---	--	---	---

### 今の仕事を続ける

#### テレワークで「転職なき移住」を実現！ (P20)

民間企業などにおいてテレワークによる働き方が浸透し、仕事を変えずに地方に移住する「転職なき移住」をする方が増えています。



01 農業



小学生の頃から海が見える暮らしに憧れていて。その理想を家族で実現しました。

森屋 政則 さん

東京都練馬区生まれ。埼玉県川越市育ち。美容師を経て、田原市へ移住。現在は自然栽培の農業を営む。

田原市に移住したきっかけとは？

もともと美容師をやっていたのですが、その後メーカーに勤めていたのですが、子どもが小さい頃、休みが全然取れなくて。海も遠く、往復6時間くらいかかる場所だったので、自分の好きなことをやろうと思って、海がそばにある田原市に移住を決めました。

現在、自然栽培の農業を営んでいるそうですね。

どんな仕事を…と考えたときに、農業をやりたいと思い、無農薬無肥料で栽培し、通販を行う農業法人にお世話になっています。みんな、土地がある人たちが農業を引き継いでいると思いますが、僕みたいに新規で来るとなかなか土地もないし、場所を探すのも大変。少ないスペースの中で、ある程度収益もあげられ、その土地に合った作物作り(さつまいもや大根)が良いかなと思い、自然栽培という方法でやっています。

森屋さんの家は空き家を活用されたと伺いました。

現在田原市には、空き地・空き家バンク(P22)という仕組みがあります。僕が来た当初はなかったので人づてに探しましたね。古民家に住むことが憧れだったので、手直ししながら生活しています。空き地・空き家バンクなど、どんどん活用されると良いですね。

森屋さんにとってサーフィンとは？

趣味というよりは、生活の一部です。サーフィンは、朝良いときもあれば、昼や夕方が良いときもあります。波の状況が分かる場所にいないと、実際良い波には乗れないのです。暮らしの中で波を見られる環境を目指した結果、今の自分があるように思います。

インタビュー内容は2017年のものです。

- 1
2
3
4

- 1.お父さんと一緒に農業を営む森屋さん
2.奥様と、小学校3年生・5歳・3カ月の男の子、お父さんの6人家族で住んでいる(2017年現在)
3.自宅にはサーフボードが洗える空間も
4.古民家に住むのが夢だったという森屋さん。広々としたお庭で家族との時間を過ごす



田原市役所営農支援

田原市農家受入技術研修

市内農家における農業実習を通して、農作物の栽培技術や農業経営についての知識を修得できます。研修後も、農家から助言などのサポートを受けることができます。

- 受講資格 市内での新規就農を希望し、原則として研修先まで通える方
研修期間 栽培作目毎の技術習得に必要な期間 ※要相談
受講料 無料(傷害保険及び損害賠償保険加入費用は受講者が負担)



新規就農者への支援

要件を満たす親元就農又は独立自営就農した方に対して、「新規就農者奨励金」を支給します。また、農業技術と経営の基礎知識を習得できる「ニューファーマーセミナー」や「4Hクラブ」\*の活動などを通して、就農者の横のつながりづくりを応援します。

\*若い農家を中心となり、農業経営をしていくうえで身近な課題の解決方法を検討したり、消費者やクラブ員同士の交流をする組織。

- お問合せ 田原市役所営農支援課
TEL.0531-22-1126

その他、新規就農全般について、お気軽にご相談ください。



功農支援会

公益財団法人功農支援会 新規就農研修

公益財団法人功農支援会が実施する、実際の農作業から理論、販売までの総合的な研修を通して未来の農業経営者を育成する研修で、「基礎研修コース」と「本研修コース」の2コースがあります。研修中の助成金支給や研修後のサポートなど、手厚い支援が特徴です。

基礎研修コース

農作物の栽培実習や勉強会などを通して、農業の基礎技術と知識を学びます。

研修期間 4~6ヶ月間

研修手当として助成金が支給されます。

本研修コース ※基礎研修コース修了が必須です。

模擬経営(モデルハウス一棟の管理)を通して、就農に必要な農業経営を学びます。

研修期間 1~1.5年間

研修手当として助成金が支給されます。

お問合せ

公益財団法人功農支援会
TEL.0532-75-0671





## 先輩移住者に聞く

自然豊かで幸せな空気感に包まれた、自分らしくいられる街。

02

創業

絶不調だった当時、  
田原市に来た時の  
“幸せに包まれた感覚”は  
今でも忘れられません。

小川さんの1日

- 4:00 起床
- 4:30 ロコポイントでサーフィン
- 6:00 家族みんなで朝ごはん
- 8:00 子どもたちを学校へ送り出して畑作業
- 9:00 お店の開店準備
- 16:00 お店を閉店 畑作業
- 17:00 ロコポイントでサーフィン
- 19:00 家族みんなで夜ごはん
- 20:00 就寝



小川 史さん

大阪市住吉区で生まれ育つ。友人が住む田原市へサーフィン旅行をした時、田原市の良さに惹かれて移住を決意。現在、コーヒーとマフィンなどを提供するカフェを営む。



- 1 1/4.経営するカフェは、地元の人だけではなくサーファーからも大人気
- 2 「瀬美半島たはらブランド」に認定された“ペーニョポンズ”
- 3 ペーニョポンズの原材料ハラペーニョは自分の畑で作っています
- 4

### 小川さんにとって、田原市はどんな魅力がありますか？

僕の理想がすべて詰まっています。サーフィンもできるし、ストレスを感じずに人間らしくいられる場所。結婚して、子どもが3人いますが、子育てにも優しいまちだと思います。今まで描いてきた、「こうなったらいいな」という夢を、形にしてくれます！

### お店を持ちたいと思ったきっかけは。

海外で初めてエスプレッソコーヒーを飲んだのが忘れられず、田原市でエスプレッソのお店をオープンしたいと屋台からスタートしました。念願のお店を持ったのは2012年。そして2021年には、築70年の元・保育園をリノベーションした現在の店舗へ移転しました。太陽の光がたくさん入るので、小さな観葉植物を置いていたのですが、自分の背丈以上に大きく育ち、最高の環境です。また、2018年には田原市定住・移住促進奨励金（P22）を使って家を新築しました。自分でつくるのが楽しいので、住みながら少しずつ手を加えています。

### オリジナル調味料を開発されたそうですね。

自分の畑で作っている“ハラペーニョ”を入れた「ペーニョポンズ」というオリジナル調味料を作りました。メキシコを旅した時、ハラペーニョの美味しさに感動し、帰国後いろんなハラペーニョを食べました。しかし、どうしてもその美味しさが忘れられず、自家栽培しました。土作りから種まき、収穫、加工、商品まですべて手作りで。農業は初めて取り組んだのですが、田原市は新規就農のサポートも手厚く、農業を始めやすいまちだと改めて体感しました。

インタビュー内容は2018年/2021年のものです。



### 田原市に移住したきっかけとは？

大阪で生まれ育ち、中央卸市場で仲卸しをしていました。1年のうち360日は仕事をしていたため、体の不調が続き「自分自身を見つめ直したい」と退職し、海外へ一人旅をしました。初めてハワイに行った時に、サーフィンを知り人生観がガラリと変わり、その後、アメリカやヨーロッパ、アジアなど、サーフィンをしながら20か国以上を旅しました。友人が住んでいた田原市へサーフィン旅行をした時に、自然豊かな環境や、ゆったりとした雰囲気に惚れて、移住をしました。

### 田原市に住んで、サーフィンと暮らし、自分自身に変化はありましたか？

田原市に移住したのが33歳の頃。地元のサーファーとも繋がり「自分も上手になりたい！」と、当時は、1日6回海に入るくらいサーフィンを楽しんでいました。現在は1日2回ほどに減りましたが、常に海は身近に感じられます。サーフィンは空気のようなもの。ここに移住してきたのも、サーフィンがあったからこそ。移住した後、体調も良くなり、自分の好きなことができる環境にすることが、とても幸せです。

## たはらサポート

創業  
支援

### 田原市創業支援ネットワーク

創業に向けての相談から、創業後における事業の安定経営・成長に向けてのきめ細やかな支援を行う、市商工会、地元金融機関などで構成されたネットワーク組織です。創業支援を必要とする方を総合的にサポートします。

### 田原市中小企業者総合支援補助事業

市内の商業振興及び商店街などの活性化を目的に、創業の促進、空き店舗の活用、産業の裾野拡大、事業承継など中小企業者の事業を総合的に支援する補助金です。

	補助内容 (概要)	補助金額
創業 創業支援	市内において、創業又は第二創業する中小企業者に対して、備品購入費を支援します。	
出店 出店促進支援	市内の空き店舗を活用して新たに商業・サービス業を営もうとする方や規模拡大を図ろうとする方に対し、改装などの経費の一部を補助します。	
新商品 6次産業化等 促進支援	市内で生産などされる農畜水産資源を活用した新商品開発や販路開拓事業を支援します。	補助対象経費 (消費税抜額) の2分の1以内
継承 事業継承支援	市内の中小企業者が円滑な事業承継を図るため、専門家の派遣、相談会の開催などにより、休業および廃業を抑制するための事業を支援します。	各項目 上限50万円
宿泊 通信環境整備 支援	企業などにおける多様な働き方に対する取組の広がりに対応するとともに、旅館、ホテル等の利用者の受入を強化するため、インターネット接続環境整備を支援します。	
温泉 温泉設備整備 支援	市内において、中小企業者が本市で湧出した温泉の活用を推進するため、温泉入浴設備、浴室を新規に設置し、又は改修する事業を支援します。	補助対象経費 (消費税抜額) の2分の1以内 上限100万円

支援毎に交付要件が異なります。活用を希望される場合はお気軽にご相談ください。

■お問合せ 田原市役所商工課  
TEL.0531-27-7331

HP



## 先輩移住者に聞く

プロサーファーになりたい！自分の夢を叶えるために移住。

### 03 水産業

仕事や住まいはなんとでもなる！  
夢を追いかけた。扉は常に開いているから  
こそ飛び込めた。

#### 那須 憲治 さん

岐阜県多治見市生まれ育つ。サーフィンをきっかけに20歳の時に田原市へ移住。しらす漁の仕事をしながら2009年ロングボードのプロ資格を取得、2017年現役引退。



#### 田原市に移住したきっかけとは？

20歳の頃、世間ではサーフスタイルが流行していました。実際にサーフィンをしたと思い田原の海へ行き、サーフィンの魅力にはまりました。当時は、岐阜県から海まで往復5時間かけて通っていました。サーフィンをやっているうちに、負けん気に火がつき「プロのロングボーダーになりたい」と思うように。仲間に相談したら「田原市に移住したら上手くなる」と聞き、すぐに田原市に住みました。

#### ロングボードのプロになり夢が実現しましたね。

海と住まいが近い環境になったので、毎日海に入って練習をし、2009年に念願のプロ資格を取りました。プロになってから、試合も中途半端になってきた時、「これではいけない」と思い、昨年全国の試合を巡ってプロを続投するかしないか、自分なりに考えてサーフィンをしました。結局は現役引退をしましたが、もちろん今でもサーフィンはしています！試合という重荷から解放されて、今は肩の荷が降りた状態で楽しみながらサーフィンをしています。

#### 田原市での暮らしはどうか？

地域みんなが優しく、自分のやりたいことができる場所です。初めは移住者に対して、地域の人との壁があるようなイメージでしたが、自分でその壁を壊そうと、地域のゴミ拾いをしたりと、地元の人と溶け込むように努力したりしたら、案外すぐに仲良くなれました。結婚し、子どもは3人で、中古物件の家を購入しました。空き家・空き地バンクは名前だけ知っていたのですが、どのように活用していいかわからず…。もし知っていたら、空き家・空き地バンクの制度を使っていたかもしれません！。

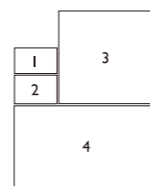
#### 仕事について教えてください。

移住当初、仕事をどうしようか悩んでいた時、サーファー仲間の親戚がしらす漁を営んでいる話を聞き、しらす漁の仕事につきました。しらす漁の仕事は、早朝から沖でしらすをとり、昼頃に港へ戻り、競りにかけるまでが仕事。14時ごろには終了するので、夕方にはサーフィンができる環境です。

インタビュー内容は2018年のものです。

## たはらサポート

水産業については求人などの情報が公表されることが比較的に少ないため、実際に地域に赴いて積極的に情報を収集することが大切です。



- 1/3しらす漁は3艘1チームで行います
- 2.船の操縦を担当する那須さん。ナビやソナーを使って漁場まで行きます
- 4.船上で作業する那須さん。



04

就業



田邊 由美 さん

京都府舞鶴市生まれ。金沢医科大学病院看護部を卒業し、看護師に。名古屋在住の頃にサーフィンと出会い、2017年田原市へ移住。現在は、豊橋市内の病院で看護師として勤務。

サーフィンと出会い、移住したことで暮らしがより豊かに。海、釣り、自家菜園。心癒される日々が大満足！

サーフィンを始めたきっかけは？

父親の転勤で全国各地を転々と巡り、金沢市で看護師になりました。その頃はスキーをしていて、パトロール救護隊としても活動をしていました。その後、名古屋市に縁があって引越し、スノーボードに転向。看護師をしながら冬はグレンデでインストラクターをしていましたが、30代後半、夏のトレーニングにと始めたサーフィンに、はまってしまいました。とても楽しくて、冬の時期も入るようになり、「もっとサーフィンをやりたい」「海の近くに暮らしたい」と思うようになりました。

そこで、田原市に移住を決めたのですね

海の近くに自宅を構えようと思い、田原市内の物件を見たり、千葉や南伊豆、海外など、各地の移住先を調べては現地まで足を運んだりしていました。突然、田原市在住の移住友達から「良い場所に土地があるよ」と連絡が入り、見に行ってみると、サーフポイントから徒歩5分以内で、ゆったりとした環境に一目惚れ！田原市に移住しようと決めました。

田原市での暮らしはどうか？

最初に思ったのは、野菜が新鮮で美味しい＆安いということ。近所で畑を持っている人からいただくことも多々あり、玄関に野菜が置いてあった時はびっくり！とても嬉しかったです。また、近所の人とのつながりや会話もあるので、安心して暮らすことができます。昨年からは自然に近い生活をしたいと、野菜を育てたり、マンゴー栽培に挑戦したりしています。最終目標は自給自足！自然な暮らしが実現できるのも、田原市の魅力です。

休みの日の過ごし方を教えてください

9時頃から昼前まで海に入って、お昼を自宅で食べて、夕方は波があればサーフィンをするルーティーンです。波がない日は海釣りをしています。波があっても、なくても、自然の遊びができるのも良い環境だなと思います。

田原市へ移住したいと思っている方に一言お願いします。

サーフィンをやっていると知り合いが増えるので、田原市の移住などの情報も入るとは思いますが、「たはら暮らし定住・移住サポーター」(P23)に情報を聞くのも良いと思います。地元の情報など深く聞くことができるのでおすすめです。田原市に移住したことで、自然と触れ合うことが増え、心も身体もリラックスでき、充実した日々を送っています。自然に感謝をしながら、サーフィンとともに、ここでの暮らしをこれからも楽しみたいです。

インタビュー内容は2019年のものです。

たはらサポート

就業支援

田原市地域職業相談室

ハローワーク豊橋と田原市が共同で運営する「田原市地域就業相談室」では、ハローワークと同じ求人情報自己検索機を設置し、市内の求人情報などを提供するとともに、仕事を探す方に対して職業相談・職業紹介及び雇用に関する各種情報提供を行っています。



■お問合せ 田原市地域就業相談室 TEL.0531-24-0050



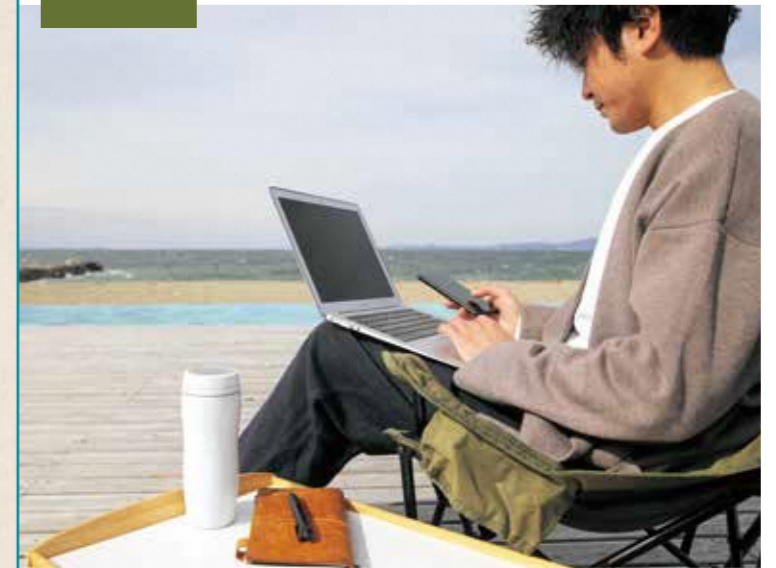
- 1.愛犬とはいつも一緒
2.波がないときは釣りを楽しんでいます
3.リビングにはピザも焼ける薪ストーブ



たはら暮らしの選択

転職なき移住

テレワークを活用した移住



テレワーク移住のメリットの一つに、従来通勤に費やしていた時間を自由に活用できることが挙げられます。田原市にテレワーク移住をすれば、従来通勤に費やしていた仕事前後の時間に趣味のサーフィンや釣り、サイクリングなどを楽しむことができ、人生がちょっとだけ豊かになるかも！まずは、ワーケーションなどで市内の生活環境や雰囲気確かめることがオススメです！

たはらサポート

お試し移住支援

田原市お試し移住支援補助金

定住・移住の促進と、地域のデジタル活用の推進を図るため、市外在住の移住希望者が実施する田原市内でのお試し移住に対し、宿泊費の一部とレンタカー借上料の一部を補助します。

市内での仕事探し、オフィスの設置や移転の検討、住まい探し、生活環境の確認など、移住を目的にした活動であれば幅広く利用いただけます。

要件、補助金額、対象期間などの詳細はHPをご覧ください。

※お試し移住期間において市内でテレワークをされる方については、補助率を優遇しています。

■お問合せ

田原市役所企画課 TEL.0531-27-7978



子育て世代



海が近くにある環境で  
のびのび子育てができます。

平野 海童 さん <知立市出身>  
夏子 さん <名古屋市出身>  
いちかさん(4才)、2017年12月に  
2人目を出産

ご夫婦とも幼少のころからサーフィンをしており、週末になると田原市へ。  
お互いの親や兄弟もサーフィンでつながっており、2012年の結婚を機に田原市へ。  
現在は、家族とともに赤羽根地域でサーフショップを営んでいます。

幼少期から田原市に来て  
サーフィンをしていたんですね

海童 さん  
お互い最初に出会ったのは、幼少期のころ。家族でサーフィンをするので、週末は知立市から田原市の海に通ってました。当時から、妻のお義父さんやお兄ちゃんとはサーファー仲間、気さくに話をしていました(笑)。

夏子 さん  
父や兄がサーフィンをしていて、週末は田原市へサーフィンに行っていました。私もサーフィンをするようになり、いろんな知り合いができました。結婚を機に田原市で暮らすと決まっても、全く抵抗がなかったです。「都会に住んでたのになんで田原市?」と言われるのですが、昔からなじみがあるまちで、第二の故郷のような存在だったのが大きかったです。

休日は家族とどのように過ごしていますか?

海童 さん  
サーフショップを年中無休で営業していますが、月1回の「ファミリーデー」を設けています。この日は、家族と一緒に外へ出て、市内のおいしいご飯屋さんに行くことが多いです。休日以外にも家族一緒に行動することが多いです。夫婦一緒に娘の保育園へ迎えに行くこともあります。自営業だからこそ、家族との時間をきちんととることが大切だと思っています。

- 1 休日にお店でお絵描きを楽しむ
  - 2 時間があるときは、ご夫婦で保育園の送り迎えをするそうです
  - 3 家族みんなでロングビーチでパチリ♪
- インタビュー内容は2017年のものです。



なるべく子どもと一緒にいる  
時間を作る

繁忙期になると出張することも多いので、お店にいるときは娘と一緒に過ごせるように時間を作っています。

保育園から戻って来たら、お店で絵を書いたり工作をしたり、一緒に遊んでいます!

田原市定住・移住促進奨励金

若者・子育て世代の住宅取得（新築住宅又は建売住宅）を応援する奨励金です。

- 対象
- ◆本人または配偶者が45歳以下
  - ◆対象住宅の所有権を2分の1以上有する方
- 奨励金額 最高60万円



■お問合せ 田原市役所建築課  
TEL.0531-23-3684



空き家・空き地バンク

市内の空き家・空き地の有効利用による定住・移住人口の増加を図るため、「空き家・空き地バンク」に登録された物件を市のホームページで紹介しています。

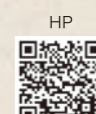


空き家改修補助金

空き家バンクに登録されている空き家の改修に活用できる補助金です。

- 所有者
- ◆空き家を自ら改修して10年以上居住できる方
  - ◆空き家を自ら改修して10年以上の賃貸を目的として使用することができる方
- 対象
- 賃借人 ◆所有者の了解を得て、空き家を自ら改修して10年以上居住することができる方
- 対象経費
- 台所、トイレ、風呂、下水道接続などの設備工事及び内装工事、屋根及び外壁工事など
- 補助金額
- ◆補助対象経費の1/2
  - ◆補助限度額50万円  
(市内業者が改修した場合は限度額60万円)

■お問合せ 田原市役所建築課  
TEL.0531-23-3684



## たはら暮らし定住・移住サポーター制度

自らも移住者である「たはら暮らし定住・移住サポーター」が定住・移住に向けた仕事や住まいなどの相談から、定住・移住後のサポートまで対応します。

### 田原市に移住を決めたきっかけとは？

東京に住んでアーティストとして活動をしていたとき、仕事は充実していたにもかかわらず、海から離れた暮らしでは、満たされない思いがありました。

海の近くに住みたいという思いが強くなり、移住先を探す中で、徳島のローカルサーファーや、徳島の地元の人たちに出会い、その後の私の生き方が変わりました。『地元』を大切に盛り上げていこうという徳島の人たちにならって、私も地元である愛知県で活動していこうという気持ちになりました。

伊良湖は愛知県随一のサーフポイントでもあることから移住を意識し始め、赤羽根には自分の街を良くしていこうと行動している人がいて、私が目指しているコミュニティがそこにあると感じました。東京から徳島、その後刈谷市に引っ越し、東浦町にて夫婦で住み始め、お互いに「田原市に住もう!」と思いました。

### 田原市の印象はどうか？

冬でも日差しが強くて夏のような感じです。土地が広く、のびのびと作品制作ができる良い環境だと思いました。何よりもサーフポイントの海に近いですし、サーファーを受け入れてくれる地域の雰囲気や、コミュニティもできつつある所が良いですね。

これからは、アートと農業で自給自足の暮らしなど、自分のペースで生活していきたいです。



私たち「たはら暮らし定住・移住サポーター」が縁で、田原市に移住を決めました。

### 理想の住まいに出会ったと伺いました。

物件探しも兼ねて赤羽根に週に1~2回通っていましたが、それでは少なくて、いい波には、サーフポイントの近くに住んでいないと乗れないのです!アートの仕事が忙しく、「今日はいい波だよ」と友達から連絡が来ても赤羽根の海に行けず、いい波にも乗れず、もどかしさがありました。

最初は空き家バンクに登録して、自分たちの足で探していたところ、「たはら暮らし定住・移住サポーター」の小川さんに出会い、空き家の情報をいただきました。空き家の持ち主の方にもつないでいただき、ご縁があって購入することができました。

インタビュー内容は2019年のものです。

自らも移住者である「たはら暮らし定住・移住サポーター」が同じ目線でアドバイスします。

まずは田原市役所企画課へご連絡をお願いします。相談内容により、たはら暮らし定住・移住サポーターをマッチングし、ご紹介します。

■お問合せ 田原市役所企画課  
TEL.0531-27-7978  
✉ jinkou@city.tahara.aichi.jp



HP



たはら暮らし定住・移住サポーターの小川さん(左)に移住の相談

たはら暮らしを始めてからのこと

暮らしている人の声を聞く  
子育てサポート



# 実際に移住ってどう？“移住の本音”。

サーフィンが好きで移住した4組の家族。サーフィンがある暮らしって憧れる！  
けれど、実際に暮らしてみてもう？子育ての環境は？など、奥様たちの“本音のたはら暮らし”について伺いました。



馬淵 あすか さん  
愛知県田原市出身、高校卒業後から岐阜県各務原市で17年暮らす。

菅原 百恵 さん  
愛知県豊田市出身、ご主人の仕事の転勤で田原市へ。

森屋 美穂 さん  
愛知県豊川市出身、結婚と同時に埼玉県川越市で暮らす。

清水 麻美 さん  
愛知県名古屋市出身、2017年夏頃には第一子誕生予定。

## 田原市のことは最初知っていましたか？

**森屋** 豊川出身なので、田原のことはある程度知っていました。埼玉のときは東京まで約30分で行けたので、結婚当初は遊ぶ場所もたくさんあったりして。けれど出産してからは、都会で暮らす上での窮屈さを日々感じましたね。

**菅原** 昔、ボディボードをやっていたので田原も知っていました。生まれも育ちもずっと豊田市だったので、田原市へ転勤になるという話を主人から聞いたときは、正直不安でした。

**清水** 確かに不安ですよ。私も田原の具体的な場所が分からなかったのですが、初めて来たときに、すごく景色が良くて、南国のような雰囲気に癒されましたね。

## 移住する前に、田原市のことをどうやって知りましたか？

**馬淵** 私たち夫婦は美容院を営んでいるので、美容商品の販売ディーラーさんに田原市のことを聞きました。

**森屋** 友人が田原の若見エリアに住んでいるので、実際に暮らす生の声を聴きました。その友人が不動産屋さんを紹介してくれたりしたので、とても助かりました。

## 移住の決断はご主人？それともお互い？

**菅原** 会社が決めたことでもあるので、やはり主人ですね。仕事の転勤だからしょうがないか…と最初は思っていました。しかし、上の子がちょうど小学校にあがるタイミングだったので、時期的には良いかなと。

**森屋** 私たち夫婦が出会ったのがオーストラリアだったんですが、海がお互い大好きで。海がある場所に住みたいねという話があって、「伊豆もいいね〜けど愛知の田原も海があるよ」って感じで、お互いの意志で移住しよっかと決めました。都会はもう十分…(笑)。子どもを育てるのは自然いっぱいの場所が一番だと感じました。



**馬淵** 岐阜もとても便利で、子どもの進学も名古屋に近い安心。という感じだったんですが、田舎で子育てしたいと主人が言っていて。移住して、もし合わない・ダメだったら、そこから考えればいかって夫婦でポジティブに考えて決めました。親や友だちには「なんで田舎に行くの？」って、反対されましたけど…(笑)。

## 実際に田原市で暮らしてみているいかがですか？

**馬淵** 野菜がこんなにおいしんだってことを知りました(笑)。主人はあまり野菜が得意ではなかったのですが、田原に来て野菜を食べた途端「野菜が甘い、おいしい」と感動したんです。それには驚きました。



**菅原** 田原に暮らして12年目になりますが、子どもが伸び伸び育つ環境かな。子どもが通う学校の生徒数が多くないからこそ、先生の目が行き届きやすい。あとは、学校行事で地引き網があったりして、都会ではできない体験ができるのも良いですね。

一同 | 分かる(笑)。

**森屋** あと、子どもたちが走り回っても安心。男の子3人だからこそ、外であれだめ、これだめ!という言葉も出ないし、ストレスもないです。

**清水** そうなんです。なんだか子育てがとても楽しみになってきた!

## 子育てするには、田原市はいい環境ですか？

**菅原** 自然と触れ合える機会も多いですし、のびのびと子育てができる環境なので、田原って良い場所だな〜と思いました。

**森屋** 今下の子が10カ月なんですけど、赤ちゃんなら健診や市の母乳相談など、育児について相談できる場がありますよ。

**清水** 妊娠中は、地元の名古屋市よりも田原市の方が妊婦健診が安かったり、市がバックアップしてくれるのがありがたいです。ただ、以前住んでいた場所(名古屋)にはたくさん産科や病院があったのですが、田原に来て病院が少ないということを知って、何かあったらどうしようと思うときもありますね。



**菅原** 上の子が今高校3年生なんですけど、どこに行くにも交通機関が少ないのが唯一の欠点。\*子どもが大きくなると親が送迎をするようになるから、中学・高校生になるとちょっと大変になるかも。

一同 | そうなんだ!知らなかった!

## 暮らしてみても、「カルチャーショック!」みたいな経験がありましたか？

**森屋** 最初ビックリしたのは、地域の集まりですね。自宅で「地域の会合」をするのですが、その中でもたくさんのしきりがあるのに驚きました。

**馬淵** そうなんです!私の住んでいる所は聞いたことないんですが、田原市でも地域によって違うのかもしれないですね。

**清水** けど、ある意味メリットになりますね。地域の人と触れ合えたり、情報だったり、絆が深まりそう。

**森屋** そうですね、そこで顔見知りにもなるし、いろんな地域の情報も交換できるからメリットになりますね!

## 最後に、奥様目線での田原市の魅力って何ですか？

**森屋** わざわざ遠くへ出かけなくても、身近な場所で子どもたちが満足してくれますね。サンテバルクたはらで遊んだり蔵王山でハイキングをしたり、近い距離でさまざまな楽しみ方ができるのが魅力かなと思います。

**清水** なんととっても風景が良いことですね。ちょっとしたリゾート地のような雰囲気が大好きです。

**菅原** 息子がサーフィンをやっているの、父親との共通の趣味があることは母親から見てもいいな〜と思いますね。

**馬淵** いろいろ魅力はあるけれど、餅投げが結構多い!というよりも、頻繁にありますね。子どもやママ友から、餅投げ情報が入ってくるんです(笑)。

一同 | 笑!餅投げ良いよね。テンションが上がる!



インタビュー内容は2016年のものです。  
\*2023年3月においては、豊鉄バスを利用して通学する市内在住の高校生に対する「田原市高校生バス通学支援」を実施し、保護者の負担軽減を図っています。

## 子育てサポート

# 子育てのことはここで



## 田原市親子交流館

田原市の子育て支援施設「親子交流館 すくっと」といえば、大きなネット遊具・ボルダリング設備などが印象的。週末には市内外から多くの方が訪れる人気スポットです。

でも、そんな魅力的な遊具は親子交流館の役割のごく一部。妊娠期から子育て期までのママやパパをサポートする、親子交流館の多彩な事業の一部を紹介します。



## 妊娠出産子育て総合相談窓口

子育て世代の皆さんが、安心して子どもを産み育てることができるよう、ママサポーター（看護職）や子育てコンシェルジュ（保育士）が相談に応じています。妊娠期から子育て期までの、切れ目のないアドバイスの提供が魅力です。小さなお悩みでも結構です。一人で悩まず、まずはご相談ください。

従来の対面・電話・訪問での相談に加えて、スマートフォン用アプリケーション「LINE」での相談が可能です。（詳細はHPをご覧ください）

■相談専用電話 TEL.0531-23-1520



## 土日祝日の子育てサービス

土日祝日でも子育て世代をサポートするサービスを提供しています。

### 一時預かりルーム にこっと 〈有料〉

満1歳から小学生未満のお子さんをお預かりします。平日も実施していますが、土日祝日は1時間単位のお預かりを行っています。



### 子育て支援センター さくらルーム

田原市の子育て支援センター「さくらルーム」は、おおむね3歳までのお子さんとその保護者が安心して遊べる場所です。滑り台やボールプールなどの遊具で遊びながら、仲間づくりの場にもなります。土日祝日も保育士による子育て相談、子育て講座、子育て情報の提供を実施しています。



### 各種相談・交付

ママサポーターまたは子育てコンシェルジュが、ゆったりとしたお部屋「ゆりかごルーム」で、妊娠・出産や子育てに関する相談に応じています。母子健康手帳の交付もおこなっていて、土日祝日も対応しています



## 子育て世代のサポート

### 産後ケア事業



出産後、ママの体調がよくなかったり、家族等から十分なサポートが受けられないなど、赤ちゃんとの生活に不安がある方を対象に、産後ケア事業を実施。悩めるママの、頼れるサポートサービスです。

### 田原市ファミリー・サポート・センター

育児を手伝ってもらいたい「依頼会員」と、育児を手伝いたい「援助会員」が参加し、地域で子育てを支えあっていくサービスです。利用の相談はすくっとへ。



### ウェルカム田原市 子育て応援訪問

田原市へ転入されたお子さんのいるご家庭へ、子育てコンシェルジュとママサポーターが訪問します。田原市で、安心した子育てができるよう応援します。



■お問合せ 田原市親子交流館すくっと TEL.0531-23-1510

# こんなことは大丈夫？

移住後の心配な事にお答えします

## Q 車は必須ですか？

**A** 地域によっては必須です。なお、公共交通としては本市と豊橋市を結ぶ鉄道、路線バス(※)、タクシーの他、フェリーなどの海上交通があります。

※豊鉄バスを利用して通学する市内在住の高校生に対しては「田原市高校生バス通学支援」を実施し、保護者の負担軽減を図っています。



## Q どのような商業施設がありますか？

**A** スーパー、コンビニ、ドラッグストア、ホームセンター、家電量販店、産直市場など一通りの商業施設が揃っています。



## Q 病院はありますか？

**A** 総合的な公的病院がある他、診療所が28施設あります。



## Q 子どもを預ける場所は、十分にありますか？

**A** 市内に保育園・こども園が19か所、児童クラブが18か所あります。一時預かり、延長保育、土日休日保育などがあり、お仕事との両立を応援します。(ニーズに合わせて対応します)



## Q 子どもが遊べる場所がありますか？

**A** 親子交流館すくっとの他、公園や児童センター、地域子育て支援センター、保育園・こども園の園庭開放などがあります。また、市内には、自然豊かなお出かけスポットが多くあります。



## Q 田原市外で移住相談ができますか？

**A** 田原市役所企画課が定期的に県内外の移住相談イベントに出展するため、そちらでの相談が可能です。また、首都圏においては田原市役所の東京事務所へ相談することが可能です。

詳細は田原市役所企画課までご確認ください  
TEL.0531-27-7978





# 定住&移住お問合せ情報

## 移住

### 定住・移住についての総合窓口

- 田原市役所 企画課  
☎0531-27-7978  
✉jinkou@city.tahara.aichi.jp



### 空き家・空き地について

- 田原市役所 建築課  
☎0531-23-3684  
✉kentiku@city.tahara.aichi.jp

### スマイルタウン赤羽根について

- 田原赤羽根土地区画整理組合  
(田原市役所街づくり推進課内)  
☎0531-23-3523

## 暮らし

### ごみについて

- 田原市役所 廃棄物対策課  
☎0531-23-3538  
✉haikibutsu@city.tahara.aichi.jp

### 上下水道について

- 田原市役所 水道課  
☎0531-23-3532  
✉suido@city.tahara.aichi.jp
- 田原市役所 下水道課  
☎0531-23-3525  
✉gesui@city.tahara.aichi.jp

### 公共交通(ぐるりんバス)について

- 田原市役所 街づくり推進課  
☎0531-27-8603  
✉machi@city.tahara.aichi.jp

## 観光

### 田原市の見所・観光について

- 田原市役所 観光課  
☎0531-23-3522  
✉syoko@city.tahara.aichi.jp
- 渥美半島観光ビューロー  
愛知県田原市西大浜13番地1  
☎0531-23-3516  
HP <https://www.taharakankou.gr.jp/>



## 仕事

### 新規就農・農地バンクについて

- 田原市役所 営農支援課  
愛知県田原市加治町南恩中7-5  
(田原農業支援センター内)  
☎0531-22-1126  
✉einou@city.tahara.aichi.jp

### 職業相談・職業紹介について

- 田原市地域職業相談室  
愛知県田原市赤石2-2(田原福祉センター内)  
☎0531-24-0050

## 子ども

### 子ども医療費について

- 田原市役所 保険年金課  
☎0531-23-3514  
✉hokenen@city.tahara.aichi.jp

### 妊娠・出産・育児相談について

- 親子交流館 すくっと  
☎0531-23-1510(施設のお問い合わせ)  
☎0531-23-1520(相談専用)

- 田原市役所 健康課  
☎0531-23-3515

✉kenko@city.tahara.aichi.jp

- あつみライフランド 健康課  
愛知県田原市保美町寺西21-10  
☎0531-33-0386

### 保育園・子育て支援について

- 田原市役所 子育て支援課  
☎0531-23-3513  
✉jidou@city.tahara.aichi.jp

### 小・中学校転入について

- 田原市役所 学校教育課  
☎0531-23-3679  
✉gkyou@city.tahara.aichi.jp

### 児童クラブについて

- 田原市役所 生涯学習課  
☎0531-23-3635  
✉syogaku@city.tahara.aichi.jp

### 【発行】田原市役所 企画部 企画課

愛知県田原市田原町南番場30-1  
☎0531-27-7978 FAX0531-23-0669  
HP <https://www.city.tahara.aichi.jp/>



### 田原市公式Instagram #たはら暮らし

一人ひとりのたはら暮らし。ちょっとのぞいてみませんか。  
Instagramで「田原市」(@tahara\_kurashi)と検索。



### たはら暮らし定住・移住サポーター公式Instagram

定住・移住先としての魅力が詰まっています！  
@tahara\_teizyu\_izyu\_supporter

